

動物に対する接触行動および生命に対する 態度と性格の関係

塗 師 斌*

Relationship between Behaviors upon Contact with Animals, Attitudes Toward Life of Animals and Personality Traits

Akira NUSHI

Abstract

The purpose of this study was to investigate the relationship between behaviors upon contact with a variety of familiar animals, attitudes toward life of animals and personality traits in college students. Subjects were 232 (86 male and 146 female) undergraduates.

The main results were as follows:

- (1) Both in sex and in the sorts of animals, the relationship between personality traits and whether one can grasp the animals was extremely different.
- (2) Generally saying, male and female students who could grasp the animals were less aggressive, less inferior, less neurotic and more empathic than the students who could not grasp the animals.
- (3) Male students who could grasp the animals were less depressive than the male students who could not grasp the animals.
- (4) Stronger tendency to avoid to see animals facing to death, could be seen in male students who were more neurotic and in female students who felt more inferiority.
- (5) Male students who had more positive attitudes toward animal protection were more empathic and more sociable than the other male students.

問題と目的

われわれの身の回りには、犬や猫、ネズミ、ゴキブリ、クモ、へび、かえる、金魚等さ

まざまな動物が存在している。これらの動物への対応の仕方にいかに大きな個人差がみられるかは、われわれの日常経験から明らかである。その実態に関するパイロットスタディとして塗師（1996）は、大学生を対象に、自分の手による接触可能度、動物の生命に関わる場面に対する態度、部屋に入ってきた動物への対応行動という3つの観点から調査を行い、いずれにおいても個人差や男女差が非常に大きいことを明らかにしている。こうした動物に対する行動や態度の大きな個人差の背後には、何らかの性格特性要因が関わっていることも十分に考えられる。そこで本研究では、自分の手による接触可能度と動物の生命に関わる場面に対する態度を取り上げ、これらと性格特性との関連を明らかにすることを目的とする。なお性格特性としては、柳井らによる新性格検査（柳井・柏木・国生，1987）から、動物に対する行動と関連が深いのではないかと考えられる社会的外向性、共感性、攻撃性、劣等感、神経質、抑うつ性の6尺度を取り上げる。

方 法

本研究は塗師（1996）のデータを、同時に実施した性格検査（調査票D）との関連という観点から分析したものである。従って以下の調査内容の調査票A, B, Cは塗師（1996）と同一である。

1. 調査対象

横浜国立大学の学生232人（男性86人，女性146人）。

2. 調査時期

1996年4月。

3. 調査方法

大学の講義時間の一部を利用して集合調査を行った。調査に要した時間は約15分。

4. 調査内容

調査票A, B, C, Dからなる。調査票A, B, Cの内容は、塗師（1996）を参照。

本研究ではこの中の調査表A, C, Dについて分析する。

イ. 調査票A（20項目）

各種の動物の生命に対する態度を調べる。

ロ. 調査票C（30項目）

30種類の生きている動物をどの程度自分の手でつかめるかを調べる。

ハ. 調査票D（60項目）

前述したように、柳井らによる新性格検査（柳井・柏木・国生，1987）から取り上げた6尺度で、各尺度10項目ずつ計60項目からなる（資料に示す）。項目1から項目60

まで、社会的外向性（以後、外向性と略す）、共感性、攻撃性、劣等感、神経質、抑うつ性という順序で、繰り返し配置されている。

5. 得点化の方法

調査票Aについては「あてはまらない」から「あてはまる」までの4段階を、それぞれ1, 2, 3, 4と得点化した。調査票Cでは、○（つかむことができる）を3, △（さわることだけならでできる）を2, 無記入（つかむこともさわることもしない）を1と得点化した。調査票Dでは、項目内容と尺度名の方向性を考慮し、一致している場合には、「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」をそれぞれ3, 2, 1, 一致していない場合（逆転項目）には1, 2, 3と得点化して、尺度名の方向で得点が高くなるようにした。たとえば外向性という名前の尺度についていえば、得点が高い方が外向性が高くなるようにした。

結果と考察

1. 動物に対する自分の手による接触可能度と性格との関係

調査票Cの30種類の動物のそれぞれに対する接触可能度に関して、「つかむこともさわることもしない」群を第1群、「さわることだけならでできる」群を第2群、「つかむことができる」群を第3群とした。本研究ではこの中から第1群と第3群を取り上げて、両群の性格検査6尺度の平均値の差を男女別に比較検討した。その際、群の人数が5名未満の場合には、結果の一般性に問題があると考え、平均値の差の検定の対象外とした。これに該当するのは、男性では、ゴキブリの第3群（0名）、ねこといぬの第1群（1名）、くわがたとひよこの第1群（2名）、小さいかめの第1群（3名）、女性では、ゴキブリの第3群（1名）、大きいクモの第3群（2名）、いぬの第1群（4名）であった。特にゴキブリは男女いづれも、ほとんど全員がつかむこともさわることもしないことがわかる。

表1は第1群と第3群の平均値の差のt検定の結果、両側5%以下の水準で有意であったものを示している（5%の場合*、1%の場合**）。なお10%水準で有意であったものは+で示す。-はいずれかの群が5名未満のため検定を行っていないことを示す。この表から、動物に対する接触可能度と関連が見られる性格特性として、男性では、攻撃性、劣等感、神経質、抑うつ性、共感性、女性では、攻撃性、劣等感、神経質、共感性が挙げられることがわかる。また、男女によって、性格特性と関連のある動物の種類がかなり異なることもわかる。これらの結果を性格尺度別にもっと詳細に述べると、以下の通りである。

表1 性格の各尺度と接触可能度の関係の有意性

	外向性		劣等感		攻撃性		共感性		神経質		抑うつ性	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
バッタ				*	*	+						
コオロギ				*	*	*		+				
せみ				+	*	*		*				
とんぼ			*		*	*		*			**	
ちょう				+	**	*		+	+			
くわがた	-		-	+	-	*	-	+	-		-	
あおむし		+						+				
あり					+							
だんご虫						*						
小さいクモ					*							
ゴキブリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
かえる					*				*		*	
とかげ												
ミミズ					+			**				
大きいクモ		-		-	*	-		-		-		-
やもり											*	
へび					*					**	**	
ナメクジ										*		
かたつむり							+					
やどかり			*									
小さいかめ	-		-		-	**	-		-		-	
ドジョウ			+	*	**	*					*	
ざりがに			**	*	*	+						
きんぎょ			*				*			*		
ひよこ	-		-		-	+	-		-		-	
アヒル			*		+				*	**	*	
ハムスター			**		**				*		+	
うさぎ			**		+							
ねこ	-		-		-		-		-		-	
いぬ	-	-	-		-		-		-		-	

(** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.10$, - 5名未満のため検定せず)

①攻撃性については、表2から明らかなように、男女ともかなり多くの動物において第1群と第3群の平均値間に有意差が見られ、いずれも第3群すなわち「つかむことができる」方が「つかむこともさわることもできない」第1群より攻撃性が低い。男性ではバッタ、ちょう、小さいクモ、大きいクモ、かえる、へび、ドジョウ、ハムスターで有意差が見られ、あり、ざりがに、ミミズ、アヒル、うさぎで有意な傾向が見られた。女性ではコオロギ、せみ、とんぼ、くわがた、だんご虫、小さいかめで有意差が見られ、バッタ、ひよこで有意な傾向が見られた。なお有意ではないが、男性のせみ、とんぼ、だんご虫、女性のありでは、第1群と第3群の平均値差が1.5以上見られ、いずれも第3群の方が低かった。このことから、一般に昆虫類に対する接触可能度は男女とも攻撃性と関係が強く、「つかむことができる」方が攻撃性が低いといえよう。たとえば男性のちょうについては、「人に八つ当たりすることがよくある」(項目51)、「短気である」(項目45)等の項目に対して「はい」と答えた人の割合は、第3群の方が第1群よりはるかに小さかった。

表2 攻撃性と接触可能度の関係

	群	男性			女性		
		人数	平均	S.D.	人数	平均	S.D.
バッタ	1	5	22.80	2.68	37	21.08	4.17
	3	73	18.80	4.01	87	19.32	4.85
コオロギ	1	9	20.00	4.21	56	21.23	4.43
	3	66	19.24	4.22	72	19.13	4.70
せみ	1	14	20.86	5.23	60	20.70	4.40
	3	66	18.58	3.82	59	18.95	4.76
とんぼ	1	5	20.60	3.44	40	21.13	4.07
	3	74	18.97	4.16	90	19.12	4.92
ちょう	1	14	22.43	4.73	58	20.45	4.49
	3	66	18.27	3.79	59	19.29	5.09
くわがた	1	2	24.00	0.00	30	21.67	3.99
	3	78	18.87	4.04	92	19.28	4.85
あおむし	1	44	19.80	4.21	105	20.11	4.53
	3	25	18.12	3.96	14	20.43	5.05
あり	1	5	22.00	3.16	25	21.12	4.41
	3	72	18.81	4.17	109	19.48	4.71
だんご虫	1	10	20.80	3.91	47	21.13	4.87
	3	69	18.80	4.30	89	19.22	4.61
小さいクモ	1	47	20.21	4.33	114	20.16	4.82
	3	24	17.58	3.56	25	18.84	4.31
ゴキブリ	1	77	18.91	4.18	144	19.84	4.74
	3	0			1	23.00	
かえる	1	22	20.82	3.96	75	19.67	4.69
	3	53	18.38	4.43	46	20.83	5.06
とかげ	1	31	19.71	4.30	94	19.85	4.67
	3	46	18.83	4.13	33	20.67	4.79
ミミズ	1	36	20.00	4.65	101	19.84	4.53
	3	40	18.18	3.69	26	19.81	5.45
大きいクモ	1	68	19.51	4.18	139	19.88	4.81
	3	5	14.80	3.27	2	19.50	3.54
やもり	1	48	18.98	4.20	106	19.88	4.75
	3	26	19.62	4.47	21	20.24	5.39
へび	1	52	20.00	4.21	102	20.12	4.60
	3	19	17.47	4.13	19	20.74	5.31
ナメクジ	1	54	19.35	4.22	120	19.80	4.64
	3	12	17.33	4.85	9	19.78	3.83
かたつむり	1	11	19.55	4.37	27	20.52	4.51
	3	65	18.80	4.14	90	19.72	4.95
やどかり	1	9	20.22	4.27	44	20.48	4.07
	3	73	18.75	4.11	90	19.31	5.08
小さいかめ	1	3	21.00	5.00	13	23.46	2.76
	3	78	18.89	4.14	113	19.35	4.77
ドジョウ	1	19	21.79	3.78	67	20.22	4.54
	3	53	18.25	3.87	56	19.54	5.22
ざりがに	1	9	20.89	4.51	51	20.84	4.09
	3	70	18.51	3.92	77	19.52	5.12
きんぎょ	1	12	18.92	3.34	40	20.70	4.44
	3	64	19.06	4.53	82	19.41	4.93
ひよこ	1	2	25.00	1.41	11	22.18	4.24
	3	77	18.90	4.23	124	19.57	4.71
アヒル	1	11	21.36	3.41	22	20.64	4.48
	3	59	18.69	4.35	94	19.28	4.85
ハムスター	1	7	23.29	2.56	11	21.82	5.49
	3	70	18.67	4.14	120	19.54	4.72
うさぎ	1	7	21.86	3.85	6	21.67	5.32
	3	69	18.94	4.33	127	19.56	4.72
ねこ	1	1	19.00		5	22.80	5.67
	3	74	19.03	4.32	125	19.69	4.74
いぬ	1	1	19.00		4	21.75	4.65
	3	74	19.04	4.40	130	19.62	4.76

(** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.10$, - 5名未満のため検定せず)

②劣等感については、表3から明らかなように、男性ではとんぼ、やどかり、ざりがに、きんぎょ、アヒル、ハムスター、うさぎで有意差が見られ、ドジョウで有意な傾向が見られた。いずれも第3群すなわち「つかむことができる」方が第1群より劣等感が低かった。女性ではバッタ、コオロギ、ドジョウ、ざりがにで有意差が見られ、せみ、ちょう、くわがたで有意な傾向が見られた。いずれも第3群の方が劣等感が低かった。なお有意ではないが、男性のちょう、小さいクモ、かえる、かたつむりでは平均値差が1.5以上見られ、いずれも第3群の方が第1群より劣等感が低かった。たとえば、男性のきんぎょについては、「自分の考えは何かまちがっている気がする」(項目52)、「人の言いなりになってしまうことがよくある」(項目58)等の項目に対して「はい」と答えた人の割合は、第3群の方が第1群よりはるかに小さかった。また有意ではないが、女性のハムスターとねこだけは、逆に第3群の平均値の方が高くなっていた。

表3 劣等感と接触可能性の関係

	群	男性			女性		
		人数	平均	S.D.	人数	平均	S.D.
バッタ	1	5	19.80	6.30	37	21.16	4.62 *
	3	73	18.84	4.59	87	19.16	4.35
コオロギ	1	9	19.89	5.42	56	21.05	4.64 *
	3	66	18.58	4.55	72	19.14	4.52
せみ	1	14	19.64	4.40	60	20.75	4.73 +
	3	66	18.98	4.67	59	19.14	4.16
とんぼ	1	5	23.60	2.30 *	40	20.95	4.17
	3	74	18.99	4.77	90	19.59	4.74
ちょう	1	14	20.43	5.11	58	20.50	4.46 +
	3	66	18.80	4.73	59	18.92	4.33
くわがた	1	2	24.50	2.12 -	30	21.00	4.62 +
	3	78	19.04	4.71	92	19.41	4.49
あおむし	1	44	19.48	5.37	105	20.37	4.52
	3	25	18.36	4.05	14	19.07	4.84
あり	1	5	18.60	5.41	25	20.64	4.40
	3	72	19.21	4.68	109	19.98	4.66
だんご虫	1	10	20.00	4.85	47	20.47	4.47
	3	69	18.84	4.51	89	19.46	4.40
小さいクモ	1	47	19.72	4.84	114	20.25	4.64
	3	24	18.17	4.91	25	19.32	4.26
ゴキブリ	1	77	19.17	4.90 -	144	20.09	4.52 -
	3	0			1	15.00	
かえる	1	22	20.23	5.62	75	20.47	4.61
	3	53	18.60	4.43	46	19.48	4.75
とかげ	1	31	20.03	4.85	94	19.95	4.54
	3	46	18.30	4.33	33	19.39	4.61
ミミズ	1	36	19.75	5.14	101	20.37	4.46
	3	40	18.35	4.26	26	19.27	4.78
大きいクモ	1	68	19.09	4.77	139	20.20	4.54 -
	3	5	18.40	6.43	2	15.00	1.41
やもり	1	48	18.96	4.66	106	20.10	4.46
	3	26	18.88	4.76	21	18.67	4.64
へび	1	52	19.31	4.94	102	20.27	4.58
	3	19	19.53	4.98	19	19.16	4.46
ナメクジ	1	54	18.67	5.18	120	20.01	4.66
	3	12	19.67	4.46	9	20.11	4.46
かたつむり	1	11	21.00	6.31	27	20.78	5.06
	3	65	18.71	4.22	90	19.43	4.26
やどかり	1	9	22.33	5.52 *	44	19.93	4.96
	3	73	18.55	4.47	90	19.93	4.29
小さいかめ	1	3	24.33	4.04 -	13	19.92	5.07
	3	78	18.56	4.52	113	19.73	4.52
ドジョウ	1	19	20.74	5.21 +	67	20.88	4.37 *
	3	53	18.38	4.53	56	19.09	4.41
ざりがに	1	9	23.22	3.46 **	51	21.02	4.59 *
	3	70	18.66	4.47	77	19.13	4.48
きんぎょ	1	12	22.00	4.84 *	40	21.05	4.06
	3	64	18.53	4.70	82	19.66	4.59
ひよこ	1	2	24.50	0.71 -	11	19.36	3.78
	3	77	18.64	4.55	124	20.12	4.49
アヒル	1	11	22.45	4.48 *	22	20.18	4.60
	3	59	18.49	4.70	94	19.59	4.44
ハムスター	1	7	24.57	2.44 **	11	18.18	4.47
	3	70	18.40	4.59	120	20.20	4.45
うさぎ	1	7	23.43	4.12 **	6	19.33	4.18
	3	69	18.46	4.72	127	19.98	4.47
ねこ	1	1	18.00	-	5	17.00	3.32
	3	74	18.86	4.79	125	20.08	4.50
いぬ	1	1	18.00	-	4	16.00	1.41 -
	3	74	18.92	4.80	130	19.98	4.42

(** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.10$, - 5名未満のため検定せず)

③共感性については、表4から明らかなように、男性ではきんぎょで有意差が見られ、あおむし、かたつむりで有意な傾向が見られた。いずれも第3群すなわち「つかむことができる」方が第1群より共感性が高かった。たとえば、男性のきんぎょについていえば、「人のために犠牲になるのはいやだ」(項目32)、「人のことより自分のことについて考えるのが好きだ」(項目44)等の項目に対して「はい」と答えた人の割合は、第3群の方が第1群よりはるかに小さかった。また女性ではせみ、とんぼで有意差が見られ、コオロギ、ちょう、くわがたで有意な傾向が見られた。いずれも第3群の方が第1群より共感性が高かった。なお有意ではないが、男性のコオロギ、ざりがに、アヒル、女性のあおむしでは、平均値差が1.5以上見られ、いずれも第3群の方が第1群より共感性が高かった。

表4 共感性と接触可能度の関係

	群	男性			女性		
		人数	平均	S.D.	人数	平均	S.D.
バッタ	1	5	21.40	4.16	37	21.62	3.39
	3	73	21.93	4.11	87	22.06	3.70
コオロギ	1	9	20.56	4.61	56	21.41	3.20 +
	3	66	22.12	4.05	72	22.46	3.61
せみ	1	14	21.71	4.14	60	21.37	3.38 *
	3	66	21.89	4.32	59	22.86	3.41
とんぼ	1	5	22.00	3.74	40	21.03	3.46 *
	3	74	21.99	4.13	90	22.41	3.43
ちょう	1	14	21.00	4.77	58	21.45	3.49 +
	3	66	21.91	4.16	59	22.54	3.47
くわがた	1	2	22.00	4.24 -	30	20.97	3.36 +
	3	78	21.87	4.03	92	22.34	3.62
あおむし	1	44	21.30	3.83 +	105	21.82	3.28
	3	25	23.28	4.41	14	23.29	4.51
あり	1	5	22.80	3.96	25	21.76	3.55
	3	72	21.78	4.19	109	22.18	3.46
だんご虫	1	10	21.60	4.09	47	22.47	3.56
	3	69	21.90	4.26	89	21.76	3.47
小さいクモ	1	47	21.81	4.26	114	21.95	3.37
	3	24	21.92	4.44	25	22.72	3.81
ゴキブリ	1	77	21.73	4.21 -	144	22.06	3.46 -
	3	0			1	24.00	
かえる	1	22	21.36	3.70	75	21.79	3.48
	3	53	22.15	4.17	46	22.37	3.51
とかけ	1	31	21.23	3.73	94	21.81	3.47
	3	46	22.59	4.16	33	22.03	3.61
ミミズ	1	36	21.94	4.05	101	22.30	3.50 **
	3	40	22.03	4.25	26	20.23	2.69
大きいクモ	1	68	21.68	4.14	139	22.08	3.37 -
	3	5	23.40	2.88	2	16.00	2.83
やもり	1	48	21.65	3.91	106	21.95	3.48
	3	26	22.42	4.53	21	20.90	3.40
へび	1	52	21.63	3.88	102	21.76	3.67
	3	19	21.68	4.75	19	21.63	2.41
ナメクジ	1	54	21.39	3.98	120	22.17	3.35
	3	12	21.67	4.08	9	21.11	3.95
かたつむり	1	11	19.91	5.49 +	27	21.52	3.18
	3	65	22.20	3.95	90	21.98	3.54
やどかり	1	9	19.67	4.74	44	21.43	3.05
	3	73	22.11	4.10	90	22.29	3.65
小さいかめ	1	3	17.67	2.52 -	13	22.00	4.08
	3	78	21.99	4.08	113	22.26	3.37
ドジョウ	1	19	21.37	3.20	67	21.91	3.28
	3	53	21.98	4.75	56	22.29	3.66
ざりがに	1	9	20.22	5.02	51	21.61	3.38
	3	70	22.06	4.17	77	22.17	3.55
きんぎょ	1	12	19.67	4.27 *	40	21.55	3.57
	3	64	22.33	4.06	82	22.37	3.44
ひよこ	1	2	19.50	2.12 -	11	20.91	3.91
	3	77	21.99	4.23	124	22.10	3.37
アヒル	1	11	20.36	3.01	22	22.09	3.46
	3	59	21.88	4.45	94	22.15	3.38
ハムスター	1	7	20.86	2.79	11	21.55	4.13
	3	70	22.04	4.37	120	22.09	3.44
うさぎ	1	7	22.29	4.07	6	21.83	3.82
	3	69	21.81	4.31	127	22.02	3.39
ねこ	1	1	20.00	-	5	22.00	4.12
	3	74	21.93	4.19	125	22.01	3.45
いぬ	1	1	20.00	-	4	21.50	4.43 -
	3	74	21.95	4.09	130	22.03	3.49

(** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.10$, - 5名未満のため検定せず)

④神経質については、表5から明らかなように、男性ではかえる、アヒル、ハムスターで有意差が見られ、ちょうど有意な傾向が見られた。いずれも第3群すなわち「つかむことができる」方が第1群より、神経質な傾向が低くなっていた。女性ではやもり、へび、ナメクジ、きんぎょ、アヒルで有意差が見られた。ナメクジ以外は、いずれも第3群の方が第1群より神経質な傾向が低かった。たとえば、女性のへびについていえば、「神経質である」(項目23)、「失敗するといつまでもくよくよ考える」(項目59)等の項目に対して「はい」と答えた人の割合は、第3群の方がはるかに小さかった。なお有意ではないが、男性のとんぼ、あり、小さいクモ、大きいクモ、かたつむり、ざりがに、ドジョウ、うさぎ、女性のかめ、ひよこ、ねこでは、平均値差が1.5以上見られ、いずれも第3群の方が第1群より神経質な傾向が低くなっていた。

表5 神経質と接触可能度の関係

	群	男性			女性		
		人数	平均	S.D.	人数	平均	S.D.
バッタ	1	5	23.40	5.13	37	22.22	5.34
	3	73	22.49	4.95	87	22.07	5.20
コオロギ	1	9	23.78	4.82	56	23.00	5.38
	3	66	22.55	4.98	72	21.92	5.10
せみ	1	14	23.21	5.22	60	22.62	5.10
	3	66	22.15	4.97	59	21.75	5.40
とんぼ	1	5	26.20	2.77	40	22.63	5.06
	3	74	22.45	5.11	90	21.93	5.21
ちょう	1	14	24.50	3.59	58	22.53	5.00
	3	66	21.89	5.20	59	21.80	5.42
くわがた	1	2	25.00	2.83	30	22.47	5.25
	3	78	22.53	5.08	92	22.21	4.99
あおむし	1	44	23.02	5.14	105	22.17	5.26
	3	25	22.68	4.57	14	22.21	4.85
あり	1	5	24.20	5.07	25	21.92	5.26
	3	72	22.36	5.02	109	22.17	5.21
だんご虫	1	10	23.70	5.60	47	22.55	5.40
	3	69	22.19	4.91	89	21.65	5.08
小さいクモ	1	47	23.15	5.06	114	22.21	5.33
	3	24	21.33	5.14	25	22.20	4.54
ゴキブリ	1	77	22.42	5.20	144	22.22	5.11
	3	0			1	12.00	-
かえる	1	22	24.50	3.89	75	22.73	5.11
	3	53	21.38	5.15	46	22.00	5.26
とかげ	1	31	22.74	4.88	94	22.11	5.46
	3	46	22.43	5.03	33	22.15	4.64
ミミズ	1	36	22.89	5.32	101	22.15	5.28
	3	40	22.00	4.57	26	21.92	4.82
大きいクモ	1	68	22.68	5.04	139	22.17	5.18
	3	5	19.80	5.85	2	18.00	1.41
やもり	1	48	22.46	4.90	106	22.46	5.11
	3	26	22.42	5.30	21	20.00	5.38
へび	1	52	23.13	4.99	102	22.56	5.17
	3	19	21.84	4.02	19	18.47	4.94
ナメクジ	1	54	22.48	5.18	120	21.88	5.31
	3	12	22.25	4.56	9	24.33	2.55
かたつむり	1	11	23.64	4.18	27	21.26	6.19
	3	65	22.17	4.97	90	21.89	4.95
やどかり	1	9	23.11	4.96	44	21.52	5.16
	3	73	22.19	5.00	90	22.29	5.27
小さいかめ	1	3	22.67	11.02	13	23.85	5.00
	3	78	22.31	4.78	113	21.75	4.93
ドジョウ	1	19	24.00	4.78	67	22.82	5.35
	3	53	22.00	4.82	56	21.41	4.88
ざりがに	1	9	24.33	4.47	51	22.80	5.30
	3	70	22.11	5.07	77	21.64	4.97
きんぎょ	1	12	23.25	5.15	40	23.65	4.73
	3	64	21.89	5.03	82	21.73	5.10
ひよこ	1	2	30.00	0.00	11	24.00	4.16
	3	77	22.19	4.95	124	22.02	5.13
アヒル	1	11	25.64	4.46	22	24.32	4.22
	3	59	21.85	4.93	94	21.26	5.31
ハムスター	1	7	26.29	3.86	11	21.27	5.88
	3	70	22.29	5.00	120	22.04	5.06
うさぎ	1	7	25.14	4.71	6	22.67	5.57
	3	69	22.41	5.02	127	21.93	5.05
ねこ	1	1	30.00	-	5	23.60	2.51
	3	74	22.36	4.95	125	21.95	5.11
いぬ	1	1	30.00	-	4	20.25	5.19
	3	74	22.32	5.02	130	21.96	5.11

(** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.10$, - 5名未満のため検定せず)

⑤抑うつ性については、表6から明らかなように、男性ではとんぼ、かえる、どじょう、アヒルで有意差が見られ、ハムスターで有意な傾向が見られた。いずれも第3群すなわち「つかむことができる」方が第1群より、抑うつ性が低くなっていた。たとえば、かえるについていえば、「すぐに元気がなくなる」(項目36)、「すぐにふさぎこんでしまう」(項目54)等の項目に対して「はい」と答えた人の割合は、第3群の方がはるかに小さかった。なお有意ではないが、バッタ、コオロギ、ちょう、あり、だんご虫、大きいクモ、かたつむり、ざりがに、きんぎょ、うさぎでは、平均値差が1.5以上見られ、いずれも第3群の方が第1群より抑うつ性が低くなっていた。このように、男性では抑うつ性と接触可能度との関係が多く動物で見られるのに対して、女性では第3群と第1群の平均値差が有意あるいは1.5以上の動物はまったく見られなかった。

表6 抑うつ性と接触可能度の関係

	群	男性			女性		
		人数	平均	S.D.	人数	平均	S.D.
バッタ	1	5	24.60	5.59	37	21.78	5.11
	3	73	21.41	5.20	87	21.68	4.99
コオロギ	1	9	23.78	6.04	56	22.27	4.83
	3	66	21.08	5.12	72	21.63	5.05
せみ	1	14	21.64	5.46	60	21.90	4.78
	3	66	21.45	5.30	59	21.56	4.84
とんぼ	1	5	27.40	2.07	40	22.20	4.88
	3	74	21.51	5.31	90	21.48	4.82
ちょう	1	14	23.57	4.72	58	21.59	4.63
	3	66	21.17	5.43	59	21.46	4.90
くわがた	1	2	27.00	2.83	30	21.50	4.82
	3	78	21.78	5.26	92	21.65	4.92
あおむし	1	44	22.25	5.65	105	21.88	4.81
	3	25	21.80	4.84	14	21.86	4.74
あり	1	5	24.20	5.47	25	21.76	4.43
	3	72	21.29	5.23	109	21.74	4.99
だんご虫	1	10	23.60	6.04	47	22.11	4.62
	3	69	21.16	5.16	89	21.43	4.95
小さいクモ	1	47	22.60	5.35	114	21.78	4.92
	3	24	20.58	5.22	25	22.32	4.23
ゴキブリ	1	77	21.61	5.48	144	21.85	4.81
	3	0			1	13.00	
かえる	1	22	23.64	5.53	75	21.69	4.93
	3	53	20.91	4.70	46	22.52	5.11
とかけ	1	31	22.00	5.77	94	21.21	5.03
	3	46	21.35	4.96	33	22.58	4.32
ミミズ	1	36	22.11	5.66	101	21.66	4.83
	3	40	21.35	4.49	26	21.77	5.05
大きいクモ	1	68	21.59	5.37	139	21.73	4.89
	3	5	20.00	5.15	2	23.50	2.12
やもり	1	48	21.69	5.65	106	21.66	4.87
	3	26	21.27	5.05	21	21.38	4.98
へび	1	52	22.40	5.19	102	21.85	4.88
	3	19	21.58	4.89	19	21.68	5.15
ナメクジ	1	54	21.59	5.63	120	21.66	5.04
	3	12	20.67	4.44	9	20.44	3.94
かたつむり	1	11	22.91	6.19	27	21.81	5.51
	3	65	21.08	5.01	90	21.49	4.59
やどかり	1	9	22.33	5.79	44	21.25	5.15
	3	73	21.27	5.16	90	21.96	4.69
小さいかめ	1	3	25.00	7.00	13	22.62	4.79
	3	78	21.41	5.16	113	21.62	4.79
ドジョウ	1	19	24.16	4.90	67	22.07	4.85
	3	53	20.74	4.94	56	21.59	4.82
ざりがに	1	9	23.00	6.10	51	21.88	4.88
	3	70	21.41	5.27	77	21.25	4.71
きんぎょ	1	12	23.75	5.28	40	22.28	4.57
	3	64	21.11	5.15	82	21.91	4.96
ひよこ	1	2	29.00	1.41	11	20.73	5.35
	3	77	21.30	5.24	124	22.15	4.79
アヒル	1	11	24.36	6.23	22	21.64	4.54
	3	59	20.63	4.99	94	21.38	4.76
ハムスター	1	7	25.29	5.59	11	21.55	4.91
	3	70	21.26	5.21	120	21.87	4.90
うさぎ	1	7	23.57	6.53	6	22.00	4.82
	3	69	21.23	5.28	127	21.78	4.86
ねこ	1	1	30.00		5	22.60	3.58
	3	74	21.47	5.13	125	21.85	4.96
いぬ	1	1	30.00		4	19.00	2.94
	3	74	21.68	5.13	130	21.80	4.91

(** $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.10$, - 5名未満のため検定せず)

⑥外向性については、表7から明らかなように、男女共に、すべての動物において第1群と第3群間で有意差は見られなかった。また有意な傾向も男性ではまったく見られず、女性のおおむしのみ、有意な傾向が見られた。したがって、これらの動物に対する接触可能度と外向性との関連は小さいといえよう。なお有意ではないが平均値差が1.5以上見られたのは、男性ではかたつむり、だんご虫、ハムスター、バツタ、あり、アヒル、うさぎ、女性ではナメクジであった。

表7 外向性と接触可能度の関係

	群	男性			女性		
		人数	平均	S.D.	人数	平均	S.D.
バツタ	1	5	23.00	7.31	37	21.27	4.48
	3	73	19.84	5.00	87	21.53	4.65
コオロギ	1	9	20.67	6.08	56	21.38	4.19
	3	66	20.17	5.19	72	21.49	4.83
せみ	1	14	21.21	5.18	60	21.62	4.14
	3	66	20.00	5.07	59	21.42	4.63
とんぼ	1	5	19.80	6.18	40	21.30	4.37
	3	74	19.89	5.21	90	21.56	4.60
ちょう	1	14	20.43	5.71	58	21.12	4.12
	3	66	19.79	5.12	59	21.58	4.68
くわがた	1	2	20.00	11.31	30	21.63	3.50
	3	78	19.87	5.08	92	21.73	4.63
おおむし	1	44	19.61	5.61	105	21.54	4.24
	3	25	20.96	4.48	14	19.21	5.39
あり	1	5	21.60	4.51	25	21.72	4.49
	3	72	19.88	5.10	109	21.24	4.67
だんご虫	1	10	22.10	5.84	47	21.74	4.54
	3	69	19.94	4.99	89	21.48	4.31
小さいクモ	1	47	19.64	5.45	114	21.68	4.48
	3	24	20.86	5.18	25	20.60	4.75
ゴキブリ	1	77	19.77	5.24	144	21.42	4.50
	3	0			1	26.00	
かえる	1	22	19.46	6.05	75	21.63	4.36
	3	53	20.42	4.96	46	20.48	5.00
とかげ	1	31	20.48	5.05	94	21.73	4.22
	3	46	20.46	5.05	33	20.58	5.26
ミミズ	1	36	19.89	5.86	101	21.80	4.47
	3	40	20.25	4.99	26	20.92	3.99
大きいクモ	1	68	20.07	5.30	139	21.55	4.42
	3	5	20.40	6.07	2	14.50	0.71
やもり	1	48	20.75	5.03	106	21.60	4.42
	3	26	19.58	5.12	21	20.43	4.42
へび	1	52	19.60	5.42	102	21.26	4.39
	3	19	19.95	5.48	19	20.47	5.27
ナメクジ	1	54	20.26	5.38	120	21.50	4.53
	3	12	19.67	5.43	9	20.00	3.50
かたつむり	1	11	18.64	7.03	27	20.89	4.63
	3	65	20.65	4.50	90	21.74	4.33
やどかり	1	9	19.11	7.25	44	21.02	3.82
	3	73	20.23	5.03	90	21.39	4.86
小さいかめ	1	3	13.33	3.21	13	21.46	4.52
	3	78	20.31	5.06	113	21.53	4.59
ドジョウ	1	19	20.42	6.10	67	21.40	4.31
	3	53	19.89	5.08	56	21.38	4.96
ざりがに	1	9	20.00	6.63	51	21.51	3.92
	3	70	19.93	5.06	77	22.04	4.55
きんぎょ	1	12	19.58	6.67	40	20.70	4.29
	3	64	20.33	5.02	82	21.78	4.54
ひよこ	1	2	22.00	7.07	11	21.64	4.67
	3	77	20.40	5.08	124	21.21	4.42
アヒル	1	11	17.55	4.68	22	21.45	4.49
	3	59	20.20	5.13	94	21.66	4.42
ハムスター	1	7	17.86	5.21	11	22.09	5.66
	3	70	20.46	5.29	120	21.14	4.57
うさぎ	1	7	18.29	6.32	6	22.67	5.35
	3	69	20.20	5.27	127	21.37	4.45
ねこ	1	1	19.00		5	22.00	2.92
	3	74	20.03	5.26	125	21.33	4.52
いぬ	1	1	19.00		4	23.00	3.56
	3	74	20.01	5.25	130	21.34	4.51

(* * $p < 0.01$, * $p < 0.05$, + $p < 0.10$, - 5名未満のため検定せず)

以上のように、本研究で取り上げた6つの性格特性尺度の中で、外向性を除く他の5つの尺度（攻撃性、劣等感、共感性、神経質、抑うつ性）は動物に対する接触可能度と関連があり、男性では5尺度とも、女性では抑うつ性を除く他の4尺度で関連が見られることがわかった。そして関連の見られる尺度についてはすべて、動物に対する接触可能度が高い方が、より望ましい傾向を示していた。すなわち男女とも、動物を「つかむことができる」方が、攻撃性、劣等感、神経質傾向、抑うつ性（男性のみ）がより低く、共感性がより高いという、社会的により望ましい方向で高かった。この理由として考えられることは、動物との接触が人間の性格形成の上で、望ましい影響を与えているのではないかあるいは不可欠なのではないかということである。動物に対する接触可能度が高い人は、おそらく動物との接触場面や接触経験は多いであろうし、それだけ自然環境からのプラスの影響を多く受けているのではないかと考えられる。

また、これらの性格尺度と関連の深い動物の種類という観点から見ると、3種類以上の性格尺度と有意あるいは有意傾向の見られた動物は、男性では、とんぼ、ちょう、小さいクモ、大きいクモ、ざりがに、ドジョウ、アヒル、ハムスター、うさぎであり、女性では、コオロギ、せみ、くわがたであった。このように、男女間で性格特性と関連の深い動物はかなり異なっており、さらに男性の方が種類が多い傾向が見られた。心理臨床場面において昆虫恐怖症やクモ恐怖症という症例があることから推察できるように、とくに昆虫やクモに対する接触行動は性格と関連が深いといえよう。

2. 動物の生命に関わる場面に対する態度と性格との関係

塗師（1996）は調査表Aの20項目について因子分析を行い、第1因子として「死に直面した動物に対する態度」（調査表Aの項目番号2,4,5,9,13）、第2因子として「動物保護に対する態度」（項目番号1,7,10,11）、第3因子として「実験用動物に対する態度」（項目番号18,19,20）の3因子を得ている。これらの因子と性格特性との関連を調べるために、まず各因子に含まれる項目の合計点を各因子の尺度得点とし、各尺度得点の上位群と下位群を男女別に定め、上下位群間で尺度得点の平均値の差の検定を行った。

イ. 死に直面した動物に対する態度（第1因子）と性格との関係

男性では表8に示すように、有意差の見られるのは神経質のみである。すなわち、ヒョウがシカを襲う映像や、生けにえの羊が首を切られる映像に目をそらすといった傾向の強い人（上位群）の方が、神経質な傾向がより高いといえる。また、有意ではないが、劣等感と抑うつ性では、上位群の方が下位群より平均が1.5以上も高くなっており、これらの傾向が上位群ではより強いことを示している。

女性では表8に示すように、劣等感にのみ有意差が見られる。上位群の方が劣等感が強い。また、有意ではないが、神経質と攻撃性と抑うつ性では、上位群の方が下位群より平均が1.5以上も高く、これらの性質がより強いことを示している。

表8 死に直面した動物に対する態度と性格の関係

		人数		外向性	劣等感	攻撃性	共感性	神経質	抑うつ性
男	上位	30	平均	20.93	19.40	19.80	22.17	24.00	22.17
			s.d	5.62	4.74	4.11	3.81	4.19	5.39
	下位	32	平均	19.69	17.63	18.75	20.84	20.88	20.31
			s.d	4.84	4.55	3.84	4.54	5.07	5.11
	有意							*	
女	上位	38	平均	20.63	21.74	20.24	21.74	23.18	22.79
			s.d	5.16	4.40	4.51	4.12	5.30	5.23
	下位	37	平均	20.84	19.41	18.65	22.11	21.35	21.19
			s.d	4.96	4.43	4.94	3.41	4.75	4.86
	有意			*					

(* $p < 0.05$)

ロ. 動物保護に対する態度 (第2因子) と性格との関係

男性では表9に示すように、共感性に有意差、外向性に有意な傾向が見られる。すなわち、イルカ、野ウサギ、熊、鳥等の動物保護により好意的な人 (上位群) は、共感性や外向性が下位群より高いと考えられる。これに対して、女性では表9から明らかなように、6尺度とも有意差が見られない。共感性のみ、上位群の方がやや高い傾向が認められる。

表9 動物保護に対する態度と性格の関係

		人数		外向性	劣等感	攻撃性	共感性	神経質	抑うつ性
男	上位	36	平均	20.72	18.36	19.39	22.78	22.44	21.53
			s.d	4.98	4.16	4.30	3.63	4.45	5.05
	下位	36	平均	18.56	19.72	18.94	20.14	22.25	21.11
			s.d	5.16	4.73	4.24	4.16	5.10	5.19
	有意			+		**			
女	上位	51	平均	21.35	20.18	19.55	22.37	21.78	21.51
			s.d	4.72	4.56	4.59	3.53	5.64	5.47
	下位	62	平均	21.11	20.11	20.29	21.35	22.42	22.34
			s.d	4.41	4.64	4.89	3.42	4.97	4.56
	有意								

(** $p < 0.01$, + $p < 0.10$)

ハ. 実験用動物に対する態度 (第3因子) と性格との関係

この因子については表10に示すように、男女ともに、有意差のある尺度はまったく見られない。上位群と下位群の平均値差が1.0以上の尺度も一つもなく、ほぼ同様な値である。したがって、犬やかえる等の実験用動物に対する態度は、本研究で取り上げている6つの性格尺度とは無関係であるといえよう。

表10 実験用動物に対する態度と性格の関係

		人数		外向性	劣等感	攻撃性	共感性	神経質	抑うつ性
男	上位	41	平均	20.20	19.22	18.83	21.73	22.39	21.66
			s.d	5.81	5.32	4.40	3.72	4.95	5.14
	下位	34	平均	19.76	18.74	19.38	21.44	22.47	21.18
			s.d	4.47	4.28	4.08	4.69	4.70	5.29
	有意								
女	上位	58	平均	21.29	20.12	20.12	21.90	21.71	21.71
			s.d	4.93	4.75	4.82	3.71	5.32	5.27
	下位	43	平均	21.05	19.40	19.56	22.53	21.53	21.42
			s.d	4.21	3.94	4.79	3.38	5.01	4.31
	有意								

まとめと今後の課題

本研究の目的は、大学生における各種の身近な動物に対する接触行動および動物の生命に対する態度と性格特性との関係を調べることであった。その主要な結果は、以下のようにまとめられよう。

- (1) 動物をつかむことができるか否かと性格との関係の様相は、動物の種類により、また男女によって、かなり異なっていた。
- (2) 一般的に言えば、男女共、動物をつかむことができるグループの方が、つかむことができないグループよりも攻撃性、劣等感、神経質の尺度得点が低く、共感性の尺度得点が高かった。
- (3) 抑うつ性については、男性では動物をつかむことができるグループの方が、つかむことができないグループよりも低かったが、女性ではすべての動物で有意差が見られなかった。
- (4) 外向性については、男女共、すべての動物において、動物をつかむことができるグループとつかむことができないグループ間で有意差が見られなかった。
- (5) 死に直面した動物の場面を見るのを避けようとする態度は、男性では神経質傾向尺度、女性では劣等感尺度と関連が見られた。避けようとする傾向の強い人の方が、神経質傾向、劣等感が高かった。
- (6) 動物保護に対する態度は、男性において共感性尺度、外向性尺度と関連が見られた。すなわち、動物保護に好意的なグループの方が共感性や外向性が高かった。
- (7) 実験用動物に対する態度は、男女共、性格との関連が見られなかった。

以上のように、動物に対する接触可能度および動物の生命に対する態度と性格との間にさまざまな関係が見られることが明らかにされた。特に、動物をつかむことができる方、すなわち接触可能度が高い方が、社会的により望ましい性格を示していたことは非常に興味深い。先に考察で述べたように、やはり同じ生きとし生きるものとしての動物との接触は、人間の性格形成の上で望ましい影響を与えているのであろう。さらにいえば、ますます動物や自然との接触が少なくなるとされる高度情報化社会においては、本研究でのこのような結果のもつ意味をもっと真剣に考えるべきなのかもしれない。

最後に、本研究の今後の課題として、性格尺度レベルでのマクロな分析だけでなく、さらに項目レベルで動物を個別に見るミクロな分析を進める必要がある。これによって、さらに興味深い知見が得られることが期待される。また、本研究では筆者が関連性が強いと考えた6つの性格特性しか取り上げていないが、たとえば協調性、支配性、自己顕示性等の他の性格特性との関連も見られるかもしれない。さらに本研究の調査対象は大学生に限られているが、幼児期から児童期、青年期といった各発達段階で、動物に対する接触行動や態度がどのように変化し、性格とどういう関連をもつのであろうか。これらを明らかにしていくことが今後の課題である。

<謝辞>

本論文の作成にあたり、石川勝明君には表の作成でお世話になりました。記して、感謝の意を表します。

文 献

塗師 斌 1996 大学生における動物の生命に対する態度と行動 横浜国立大学教育紀要, 第36集, 205-215.

柳井晴夫・柏木繁男・国生理枝子 1987 プロマックス回転法による新性格検査の作成について (I) 心理学研究, 58, 156-165.

資料

調 査 票 D

次の各文の内容は、あなたにどの程度あてはまりますか。あてはまる場合には「はい」、どちらともいえない場合には「どちらでもない」、あてはまらない場合には「いいえ」を○で囲んでください。

- 1 話し好きである。
- 2 相手の気持ちになって考えるようにしている。
- 3 好き嫌いが激しい。
- 4 多くの点で人にひけめを感じる。
- 5 心配性である。
- 6 じっと静かにしているのが好きだ。
- 7 人と広く付き合うほうだ。
- 8 物事に敏感である。
- 9 人にとやかく言われると、必ず言い返す。
- 10 私には人に自慢できることがある。
- 11 ちょっとしたことが気になる。
- 12 憂鬱（ゆううつ）になることが多い。
- 13 無口である。
- 14 困っている人をみると、すぐに助けてあげたくなる。
- 15 他人には寛大なほうだ。
- 16 意見ははっきり述べるほうだ。
- 17 物事を難しく考えるほうだ。
- 18 自分勝手に思い込むことが多い。
- 19 自分はわりと人気者だ。
- 20 他人の苦しみがよくわかる。
- 21 馬鹿にされたら、その仕返しをしたいと思う。

- 22 自信を持っている。
- 23 神経質である。
- 24 会話の最中にふと思い込むくせがある。
- 25 生き生きしていると人に言われる。
- 26 頼まれ事は断り切れない。
- 27 すぐ興奮してしまう。
- 28 困難にあうと、うろたえてしまう。
- 29 他人の言動をいちいち考える傾向がある。
- 30 理由もなく自分が惨めに思えてくることがある。
- 31 陽気である。
- 32 人のために自分が犠牲になるのはいやだ。
- 33 意見が合わないと、相手を批判したくなる。
- 34 グループで何か決める時は、誰か他の人の意見に従う。
- 35 あまり物事にはこだわらないほうだ。
- 36 すぐに元気がなくなる。
- 37 初対面の人には自分の方から話しかける。
- 38 他人の世話をするのが好きだ。
- 39 失礼なことをされると黙っていない。
- 40 何かを決める時自分ひとりではなかなか決められない。
- 41 心配事があって夜眠れないことがある。
- 42 わけもなく不安になることがある。
- 43 よく人から相談を持ちかけられる。
- 44 人のことより自分のことについて考えるのが好きだ。
- 45 短気である。
- 46 自分つまらない人間だ。
- 47 いやなことはすぐに忘れるほうだ。
- 48 体がだるく感じることもある。
- 49 話題に事欠かないほうだ。
- 50 人のためにつくすのが好きだ。
- 51 人に八つ当たりすることがよくある。
- 52 自分の考えは何かまちがっている気がする。
- 53 気疲れしやすい。
- 54 すぐにふさぎ込んでしまう。
- 55 誰とでも気さくに話せる。
- 56 気の毒な人をみると、すぐに同情するほうだ。
- 57 自分に都合が悪くなると、相手を責めたくなる。
- 58 人の言いなりになってしまうことがよくある。
- 59 失敗するといつまでもくよくよ考える。
- 60 空想にふけることが多い。